

2018年1月10日

各 位

大阪信用金庫
理事長 高井 嘉津義

定例調査：第174回 景気動向調査（10～12月期）

- ☆外需とインバウンドで景気回復・売上・収益DIリーマンショック前の水準へ
- ☆売上増加と設備投資の好循環・・・・・製造業の設備投資 4期連続増加
- ☆原材料高騰と物流コスト増が直撃・・・・・問題点「仕入単価の上昇」44.1%
- ☆業績回復の賜物？・・・・・冬季賞与「支給する」引き続き高水準で推移

●外需とインバウンドで景気回復 売上・収益DI リーマンショック前の水準へ

総合では、売上DIが+3.9(前回は+5.9ポイント)、収益DIが+1.8(前回は+4.3ポイント)となり、売上DI、収益DIともにプラスに転じました。景気回復によりマイナス圏を脱したのは2006年12月期以来11年ぶりであり、2008年のリーマンショック前の水準に回復しました。

業種別では、外需拡大を背景に製造業が売上DI、収益DIともに連続して上昇しています。それに伴い物流が活発になり運輸業も上昇、引き続きインバウンド需要に支えられた飲食業も大幅に上昇しました。

●売上増加と設備投資の好循環 製造業の設備投資 4期連続増加

設備投資は、総合では「実施中」9.1%(前回は+1.4ポイント)、「予定あり」10.1%(前回は△0.4ポイント)で、合計19.2%となりました。売上DI、収益DIが好調なことから、全体として売上増加と設備投資との好循環が生まれています。

業種別では、製造業が牽引しています。「ものづくり補助金」などを活用し、積極的に設備投資を行う企業が多く、製造業では4期連続で増加しています。

●原材料高騰と物流コスト増が直撃 問題点「仕入単価の上昇」44.1%

経営上の問題点は、総合では「仕入単価の上昇」が44.1%(前回は+4.8ポイント)になりました。製造業では石油、鉄鋼などの原材料、飲食業では野菜、魚介類などの食材が値上がりしました。仕入の物流コストも増え仕入価格上昇に拍車がかかっています。

製造業や建設業、サービス業、運輸業に加え、飲食業でも「人手不足」が問題点として浮上しました。特に運輸業では17.6ポイントも増加し深刻化しています。

●業績回復の賜物？ 冬季賞与「支給する」引き続き高水準で推移

冬季賞与の支給については、「支給する」が64.3%(前年比+3.4ポイント)となり、一昨年の夏季賞与以降、連続して6割を超え、高水準で推移しています。

従業員10人以下の企業で「支給する」が増加し、特に従業員4人以下の企業で6.9ポイントも増加しました。規模の小さな企業にも賞与を支給する動きが広がっています。

賞与を支給する企業が増えていることから、今後の内需拡大に期待が持てます。

調査時点：2017年12月上旬

対象期間：2017年10～12月(実績) 2018年1～3月期(見通し)

対象企業：当金庫お取引先1,773社(大阪府内、尼崎市)

回答企業数：1,453社(回答率82.0%)

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所(担当：福井)

TEL:(06)6211-2921 FAX:(06)6211-2930

E-mail:souken@osaka-shinkin.co.jp URL:http://www.osaka-shinkin.co.jp

この街のホームドクター